

工業廃液処理剤の製造販売や自動車整備などを手掛ける三谷興業（三谷道郎社長、名古屋市中区）は、2022年に移転・新設した東海工場（愛知県東海市）で、省力化による働き方改革を推進している。最新設備による自動化に加え、スタッフによる工夫など「企業と従業員の協力体制」による相乗効果で労働環境を整える。人材のつなぎ止めや採用拡大に加え、業務品質の均一化にも貢献している。

三谷興業 東海工場（愛知県東海市）

羽ばたけ 整備業



三谷興業 東海工場

従業員とタッグで働き方改革

ニッチトップな地位確立目指して

東海工場は伊勢湾岸自動車道東海インターチェンジ近くに立地している。周辺には運送事業者の拠点多く、同工場も大型車に特化。稼働開始の際、三谷社長は「ニッチトップな地位の確立」を掲げ、取り組みを続けてきた。

働き方改革は大きく2つに分けられる。設備やシステムなど「工場の工夫」と、仕事の進め方などの「従業員の工夫」だ。

工場の工夫はハードとソフトの両面から実施している。まず、工場内の設備を刷新した。立ったままでもタイヤの脱着が可能な「スカイトレイン」を導入。ピットも整備士がかがまずに作業が行える昇降式を採用した。さらに、作業中に発生した粉じんが飛散しないように吸引装置を設置し、スタッフが健康を害する可能性を最小限にしている。休憩室や更衣室も広くしたほか、シャワー室も複数完備



社員の負担にならないように設備を刷新

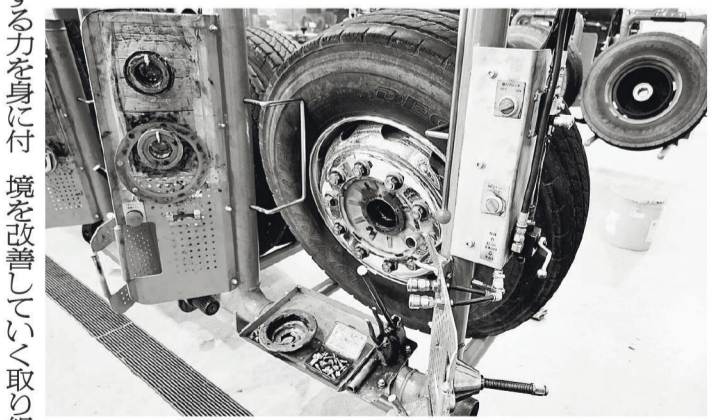
三谷流整備の基軸 一丸で

自ら思考し 実行する力を

従業員の工夫につながるため、清掃や整頓などを通じ、職場での当事者意識と自主性の醸成に力を入れている。三谷社長の社員に対する「自ら



常に清潔な制服で仕事に臨む



今ある設備を三谷流に。ボトムアップでカスタマイズ



休憩室は明るく、社員の憩いの場

の重要性を強く意識している社員も増えている。例えば、社員は工場の設備などに対する環境改善提案を積極的にやっている。これは、設備のカスタマイズや新たな機器の増設などで反映されている。スカイトレインに工具や部品を置く場所を備え付けたり、外に面した場所に新たに傘立てを設置してすぐに屋外と工場を行き来できるようにしたりと、社員自ら職場環

（中部支社・春田 菜里）